

平成20年9月2日

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
センター長 河田恵昭 様

人と防災未来センター事業評価委員会
委員長 土岐憲三

人と防災未来センター事業評価（平成19年度）について

本事業評価委員会は、貴センターの平成19年度事業実績について、別紙のとおり評価します。

人と防災未来センター 平成19年度事業評価

評価単位	評価*	コメント
展示事業	S	<ul style="list-style-type: none"> 人と防災未来センターは設置以来、所期の目的の達成のために鋭意努力を重ねた結果、次第に関係者から高い評価を得るに至っている。 特に2008年1月のリニューアルにより、展示の充実が図られており、今後その効果が更に高まるものと期待される。
資料収集・保存事業	A	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集と保存という地道な事業を着実に続けており、震災資料を托した被災者や団体からも高く評価されている。 所蔵する資料のみならず、多くの関係機関が連携して所蔵資料のデータベースを共有するシステムの構築も望まれる。
実践的な防災研究と若手防災専門家の育成事業	A	<ul style="list-style-type: none"> 自治体との連携を念頭に置いた、実践的な研究が行われている。 ただ、目標としている若手研究員の育成については成果が明示的ではない。
災害対策専門職員の育成事業	A	<ul style="list-style-type: none"> 災害に関わる研究内容を自治体に対して伝達するための各種の方策が立てられ、それらを通じて研究成果の防災対策への翻訳業務が行われている。 こうした事業の意義は評価出来るが、より密度高く実施される事が望まれる。
災害対応の現地支援事業	A	<ul style="list-style-type: none"> 頻発する自然災害の発生時における対応が迅速に行われている。 他の機関や組織との連携を図る事が望まれる。 さらに戦略的で波及効果のある支援の枠組みの構築が望まれる
交流ネットワーク事業	A	<ul style="list-style-type: none"> センターで研修を受けた者のネットワークの構築が順調に行われており、それを通じての情報伝達が成果を上げている。 一方、次世代語り部などを通じての活動に関しても今後期待できる。

* 評価基準
(4段階評価)

S : 大変評価できる
 A : 評価できる
 B : あまり評価できない
 F : 評価できない